



令和6年度第4号

江丹別通信



江丹別まちづくり実行委員会から

江丹別まちづくり実行委員会では、今年度、次の事業を進めました。

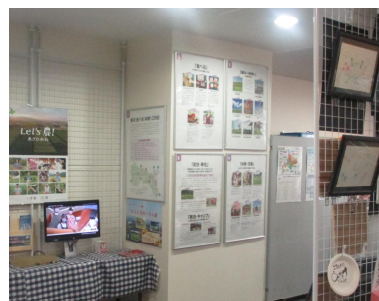
○「ぐるっと江丹別魅力満載マップ」の改訂

「ぐるっと江丹別魅力満載マップ」の情報を更新して作成。

仕様 A3版、両面カラー、外四つ折り
作成部数 4,000部



○江丹別の魅力PRパネルの展示



A1版サイズのパネルを、パークランド嵐山、まちなか交流館（他の展示のない時期）で展示。A3版サイズのパネルを、嵐山中央会館、嵐山小中学校、若者の郷（若者センター、グリーンセンター）、廃棄物処分場、春日青少年の家で展示。

○インターネットを活用した地域PR

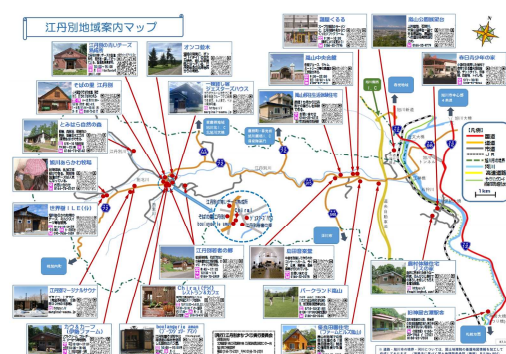
ホームページ「江丹別（そばとチーズのえたんべつ）」を継続して開設。



○江丹別通信の発行

年4回発行。（A3版、両面カラー、二つ折り、各戸配布）

○「江丹別地域案内マップ」の改訂



江丹別地域の各施設の詳細な情報が載っているホームページに誘導するQRコード等を掲載した「江丹別地域案内マップ」の情報を更新して作成。

なお、データ作成から印刷まで実行委員会で行い、随時、変更や増刷をできるようにしました。

仕様 A3版、片面カラー、二つ折り
作成部数 3,000部

マイナンバーカードの運転免許証利用がはじまりました

令和7年3月24日から、希望する方には、マイナンバーカードを運転免許証としても利用できるようになりました。



運転免許の保有方法（いずれかを選べます。）

- 運転免許のみ（以下「免許証のみ」と記載。）
- マイナ免許証（運転免許の情報が記録されたマイナンバーカード）のみ（以下「マイナ免許証のみ」と記載。）
- マイナ免許証と運転免許証の2枚持ち（以下「2枚持ち」と記載。）

マイナ免許証とする（持つ）メリット（抜粋）

- 運転免許の更新時講習がオンラインで受講できるようになります。※優良、一般運転者のみ
※オンライン講習ができるのは、マイナンバーカードに運転免許情報の記録をしてからになります。
※オンライン講習の受講後に、運転免許試験場（センター）で視力検査・写真撮影などの更新手続を行う必要があります。
- 更新手数料等が安くなります。
※更新手数料 免許証のみ 2,850円、マイナ免許証のみ 2,100円、2枚持ち 2,950円
※講習手数料 対面講習 優良運転者 500円、一般運転者 800円、違反運転者 1,400円
オンライン講習 優良運転者 200円、一般運転者 200円 ※違反運転者は対面講習のみ
- マイナ免許証の住所変更等は市役所等での届出のみとなり、警察署等への届出の必要はなくなります。
※「免許証のみ」や「2枚持ち」の方は、運転免許証の住所等の変更手続を警察署等で行う必要があります。

留意事項（抜粋）

- ※1 運転免許の更新時以外でもマイナンバーカードへの運転免許情報の記録手続ができます。（運転免許試験場（センター）・各警察署で手続（手数料1,500円））
- ※2 マイナ免許証の保有後、今年の秋頃までにマイナンバーカードの更新がある（カードが新しくなる）と、上の※1の運転免許情報の記録手続が再度必要になります。
マイナンバーカードの本体が変わると、マイナンバーカードのICチップへの運転免許情報の記録が必要になるため、上の※1の運転免許情報の記録手続が必要になります。
今年の秋頃にはシステムが改修され、マイナンバーカード更新時の運転免許情報の記録（データ）の移行ができるようになるようです。
- ※3 マイナンバーカードを紛失したときは、マイナンバーカードの紛失・再交付手続（市役所等で手続（特急発行（手数料2,000円）：受取まで1週間以内、最短5日間要。通常発行（手数料1,000円）：受取まで1～2月間程度要））と、上の※1の運転免許情報の記録手続が必要になります。
すぐに運転免許証が必要なときは、運転免許試験場（センター）で再交付手続をすることになりますが、その時点で運転免許証のみの保有となり、マイナ免許証とするためには上の※1の運転免許情報の記録手続が必要になります。
- ※4 マイナンバーカードと運転免許の有効期間（更新時期）は異なります。また、マイナンバーカードには運転免許の免許種別や有効期間等は表記されません。
マイナ免許証での運転免許の免許種別や有効期間、番号等の確認は、スマートフォン等で「マイナポータル」からの確認か、「マイナ免許証読み取りアプリ」をインストールし、そのアプリを利用した確認となります。
レンタカーを借りるときなどで専用アプリ（マイナ免許証読み取りアプリ）を使つての運転免許情報の提示が必要になることがあったりします。

このほかにも留意事項等がありますが、詳しくは、北海道警察や警察庁のホームページなどで御確認ください。

北海道警察のホームページ

<https://www.police.pref.hokkaido.lg.jp/guide/menkyo/my-number/my-number-menkyo.html>

警察庁のホームページ

https://www.npa.go.jp/bureau/traffic/r4kaisei_main.html

電話 運転免許ナビダイヤル ☎0570-080-456（平日8:45～17:30（それ以外の時間は当直の方が対応））

ホームページやナビダイヤルでわからないときは旭川運転免許試験場（☎0166-51-2489）へ。

発行元 江丹別まちづくり実行委員会

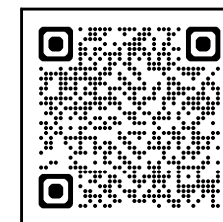
旭川市江丹別町中央 旭川市江丹別支所内

Tel 0166-73-2001 Fax 0166-73-2055

ホームページ「江丹別（そばとチーズのえたんべつ）」

URL→<https://etanbetsu.com/blog/>

QRコードは右のとおりです。



江丹別川と河岸段丘のヒミツ

みなさん、こんにちは。江丹別公民館長の向井正幸です。 昨年（令和6年）4月に江丹別公民館に勤務となり、毎日が車通勤となりました。すると江丹別川沿いには河岸段丘（かがんだんきゅう）が多いことに気付き、また、江丹別川が南北方向に流れていることがずっと気になっていました。今回は、このことについて少しだけお話をしたいと思います。

どうして江丹別川沿い（南北）に河岸段丘があるのでしょうか。

一般に段丘（だんきゅう）ができるためには、土地が隆起する（盛り上がる）ことと、断層が起こることが必要です。

※断層・・・地層や岩盤に力が加わって、割れて、ずれた状態

江丹別川は、南北方向に延びる幌内山地の中に、南北に流れておりますが、この幌内山地は地下の深い場所で約1億数千万年前に作られた岩からできており、地下から長い時間をかけて上昇し、現在の山地になったと考えられます。

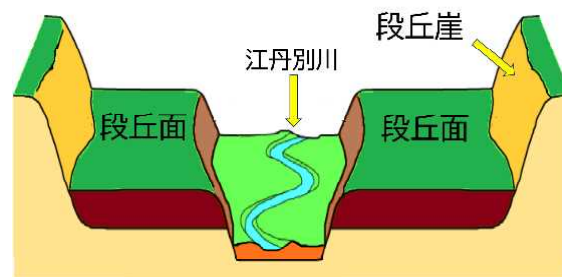
また、少し離れた場所になりますが、上川盆地の南方の富良野盆地に南北に走る活断層があることが知られています。

※活断層・・・過去に繰り返し活動し、将来も活動すると考えられる断層

もし、この活断層が上川盆地や江丹別の地下まで続いていたとしたら、江丹別川が流れる場所は、もしかすると南北方向に続く活断層帯の上にあり、今も上昇し続けているのかもしれません。

その上昇する速度は、同じ幌内山地にある神居山の標高345m付近で見つかった河川堆積物中の黒曜石礫（こくようせきれき）の年代測定値から推定すると、山の上昇速度は0.1mm/年となります（黒曜石礫による年代測定値などの話は紙面の都合で割愛させていただきます。）。

※黒曜石礫・・・黒曜石はガラス光沢を有する流紋岩質のガラス質火山岩で、その黒曜石が礫状（砕けたものが集まった状態）に堆積したもの。黒曜石からは年代を測定することができます。



河岸段丘
（川に沿って階段状に形成された地形）



江丹別地区にも遺跡が見つっています。

旭川市内でもそうですが、明治24（1891）年から始まった江丹別地区の入植後、江丹別地区から嵐山地区にかけて川にしっかりとした堤防ができるまで、平地では洪水による水害が幾度となく発生していました。江丹別地区は山に囲まれており、山に降った雨水が江丹別川に集中してくるため、幅の狭い流域では周囲の平地がすぐに泥水に浸かってしまい、しかも、洪水時には、主に火山灰（時には様々な変成岩）が風化した粘土によって耕作地が覆われたため、農作物が多大な被害に遭いました。

先史時代の人々が暮らしていた水害に遭わない安全な場所は、河岸段丘の上の平地でした。私達の地域においてもそうだとしたら、河岸段丘の上には大昔の人の痕跡、すなわち、遺跡が必ずあるはずです。実際、富原地区にある江丹別ダムの上流側と下流側に2か所、嵐山地区の江丹別川入口付近にも年代不詳の遺跡が4か所ほどあります。しかし、その間の地区では、遺跡が全く知られていません。本当に誰も住んでいなくて見つからないのか、それとも開拓時に遺物が出てきても気付かなかったのか・・・。



★が江丹別ダム近辺の遺跡の場所あった場所



★が年代不詳の遺跡の場所あった場所

<一口メモ>

大昔のお墓とされている神居古潭ストーンサークルも標高213mの石狩川が作った段丘面で見つかりました。そして、その下の段丘面でもストーンサークルが数年前に見つっています。このように段丘面には、先史時代の人々の生活の痕跡が残っています。

（※ちなみに、神居古潭ストーンサークルは、日本一行きづらい場所にあります。）



神居古潭ストーンサークル

このお話は、3月に開催した江丹別公民館の特別講座でお話しした一部になります。